



日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」

道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算

第71号 2021.12.

道内学芸員の中では少数！地質と岩石が専門の 日高山脈博物館学芸員の主な活動報告

ネイチャーセミナーなど主催事業は中止でしたが、学芸員は常に活動しています。

学芸員は、主に、博物館の事業を開催しているようなイメージもあると思いますが、それは博物館の専門職員としての側面の一部であり、それ以外にも常にさまざまに活動しています。

今年も、主に、地質学的・岩石学的な調査の依頼、野外巡検や博物館を含めた野外学習などの講師依頼を受けました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、野外授業などの依頼も少なく、とくに道外の国公立大学の野外巡検の講師も依頼されていましたが、巡検自体が中止となりました。講師などを承諾する場合も、お互いに新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じた上での承諾・実施となりました。

地質学的・岩石学的な調査依頼は、昨年から継続していた、シーソラプチ川の河原の石やその流域で見られる風景の中の岩石についての岩石学的調査の依頼を受け、調査結果をまとめ、それを反映したリーフレットが、2月末に発行されました。また、本誌第70号でもお知らせしたとおり、日高周辺の地質露頭の一部について共同で2本の論文執筆を行ないました※。

講師の受諾では、7月・11月に日高町立門別小学校・日高小学校から日高ヒスイなどの岩石観察や博物館の展示解説など「ふるさと学習」にかかる講師を、10月に上富良野町立東中小学校から沙流川での岩石観察や博物館の展示解説など、調べ学習「北海道の大自然を体験しよう」にかかる講師などを、務めさせていただきました。

他にも、岩石・鉱物図鑑（池田書店発行）への写真提供依頼や十勝毎日新聞など新聞の取材依頼も受けました。今後も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながらも、積極的に博物館活動を行なっていきたいと考えています。



調査依頼を受けた「シーソラプチ川周辺の岩石」から、学芸員が作成した岩石薄片の写真の一部です。十勝岳火山群の両輝石安山岩（上）、日高変成帯付近の塩基性ホルンフェルス（中）、イドンナップ帯付加体の緑色岩（下）など、シーソラプチ川周辺では、時代も岩石も異なるさまざまな地質帯の岩石を見ることができ、大変楽しい調査となりました。写真の横幅は約12mmです。

※ 加藤孝幸・東豊土（2021）北海道平取町岩知志の蛇紋岩体と泥岩のテクトニックな接触関係。地球科学, 75, 201. doi.org/10.15080/agcjchikyukagaku.75.3_201
加藤孝幸・東豊土（2021）北海道占冠村赤岩青巖の低温沈澱性蛇紋岩脈。地球科学, 75, 202. doi.org/10.15080/agcjchikyukagaku.75.3_202

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひご利用下さい。…⇒ ホームページ (<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。